

因幡の国伝説を巡る



因幡の白兔

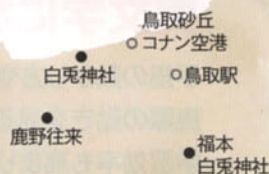
流された島から陸に戻るために、サメを欺いた白兔は皮を剥がれてしまふ。そこへ通りかかった大国主命から傷の癒やし方を教えられ、体は元通りに。助けられた白兔は、大国主命が八上姫と結婚すると伝え、その予言通りに2人は結ばれる。

1.白兔神社の拝殿。その後ろにそびえる本殿も必見。2.砂浜にある恋島から望む淡岐ノ島。3.社務所で授与する五縁を招く「結び石」を、鳥居や白兔の石像などに置いて祈願する。



●白兔神社

御祭神は白兔。参道の両脇の白兔の石像がお出迎え。そのほか、身洗ノ池、立派な注連縄を持つ拝殿、菊座石が土台の本殿なども見どころ。「道の駅 神話の里 白うさぎ」に隣接する。



1.福本地区にある白兔神社。白兔神は、賀茂神社に合祀され、鳥居と額、神木などが残る。2.波に乗る兔の彫刻が施されている白兔神社の本殿は近くの青龍寺に移設された。

●鹿野往来

城山の周りに配された町屋の古い家並みが残る。L字路やT字路などは一見行き止まりにも見え、外部からの侵入者を防ぐ戦国時代らしい設計。



「恋人の聖地」として、女性客を集めた。最近では、仕事の縁や、人と人との縁などさまざまな縁を結び、また傷の治療にもご利益があるとして、男性客も訪れる。鳥取には、山間部の八頭町にもう一つの白兔伝説がある。天照大神の行幸の際に、白兔が現れて飯の宮にふさわしい場所に案内したとされ、白兔神として崇められている。福本地区にある白兔神社など、兔にまつわる社寺が多く残っており、白兔海岸の後に、その兔たちを訪ねる旅もまた楽しい。ほかに立ち寄りたいたのが、戦国時代の城下町の面影が残る「鹿野往来」だ。ここには、八上姫に劣らぬ美女の伝承がある。都で天皇の親王から求婚されながらも、一生を仏に捧げたさくら姫の物語だ。町民ミュージカルでも毎年上演され、町でも語り継がれる。鹿野はおもてなしの町ともいわれる土地柄。春には約500本の桜が咲き誇る鹿野城趾公園で、町の人たちの語りを聞くのも一興だろう。



鹿野城趾公園上から見下ろす鹿野の町並み。ぶらっとしかのガイドの会 <http://www.shikano-net.com/guide/>

1.400年間流れ続ける水路が町なかを縦横に流れる。2.特産品のすげ笠を器にした「夢こみち」のすげ笠御膳。

空路、鳥取に入ると、緑の森と澄んだ碧海とに挟まれた美しい白砂の海岸線にまず出会う。山陰海岸ジオパークだ。古事記にも記載される神話「因幡の白兔」の舞台となった白兔海岸は、その一角にある。近くには、白兔が洪水で流されたとされる淡岐ノ島も。神話を知っていると、白兔が泳ぐサメが想像できて、なかなか面白い。もともと白兔海岸は、夏に海水浴客やサーファーでにぎわう行楽地。それが白兔神を祀る山側の白兔神社とともに通年でにぎわう観光スポットとなったのは、神話のおかげだ。大国主命に助けられた白兔が、美女と評判の八上姫と結ばれるのを予言したことに由来し、

「恋人の聖地」として、女性客を集めた。最近では、仕事の縁や、人と人との縁などさまざまな縁を結び、また傷の治療にもご利益があるとして、男性客も訪れる。鳥取には、山間部の八頭町にもう一つの白兔伝説がある。天照大神の行幸の際に、白兔が現れて飯の宮にふさわしい場所に案内したとされ、白兔神として崇められている。福本地区にある白兔神社など、兔にまつわる社寺が多く残っており、白兔海岸の後に、その兔たちを訪ねる旅もまた楽しい。ほかに立ち寄りたいたのが、戦国時代の城下町の面影が残る「鹿野往来」だ。ここには、八上姫に劣らぬ美女の伝承がある。都で天皇の親王から求婚されながらも、一生を仏に捧げたさくら姫の物語だ。町民ミュージカルでも毎年上演され、町でも語り継がれる。鹿野はおもてなしの町ともいわれる土地柄。春には約500本の桜が咲き誇る鹿野城趾公園で、町の人たちの語りを聞くのも一興だろう。



さくら姫物語
平安朝の昔、因幡気多の郡司の娘、桜姫は、都で天皇家の親王から求婚されるほどの美女ながら、鹿野に戻り、一生を仏道に捧げる。桜姫が病人に祈りを捧げるとどんな病氣も立ちどころに治癒したという。七くると、白衣の天人によって鷲峰山の空高く上つていった。